



AIYES 通信

横浜スペイン交流協会会報

1999年7月1日発行 第20号 発行・横浜スペイン交流協会事務局

1999年度定時総会盛大に開催

今年度の定時総会は過去最高の出席者を得て、坂本前駐スペイン大使で当協会顧問の講演や、レニャ新駐日スペイン大使夫妻の来日26日目の突然の訪問等、うれしいハプニングもあり、大いに盛り上がった。

5月29日（土）午後3時より、西区もみじ坂会館にて開催。朝倉事務局長の司会により、下山会長の挨拶、議長選出に続き、議事に入った。1998年度の事業報告、決算報告、1999年度の事業計画および予算についての説明が行われ、議事の最後は5号議案として、レニャ新スペイン大使を当協会の名誉会長とすることとし、すべての議案は承認を得て終了した。

総会が始まって間もなく、レニャ大使夫妻がご到着になり、大変ご丁寧なご挨拶をいただき、当協会参与の、田野井横浜市議会議員が歓迎の挨拶を述べた。下山会長と大使とは10年前、大使が当時文化担当官として赴任なさった時からの知己であり、今後の当協会の発展にとって幸先のいい新年度の出発となった。大使夫人には横浜市の花であるバラの花束を贈呈した。

4時より、坂本顧問による講演があり、スペイン大使の体験から学ばれた貴重なスペイン観を披露され、魅力的な1時間があっという間に終わった。

5時より坂本顧問による乾杯の音頭で親睦会に入り、参加者全員が和やかに歓談し、会員同士の親睦を深め、総会は盛大に終了した。



▲総会参加の会員に挨拶する下山会長

ようこそ横浜へ！

駐日スペイン大使ホアン・レニャ閣下 着任早々来浜

5月初旬、駐日スペイン大使として着任されたホアン・レニャ閣下が、夫人共々5月29日開催の定時総会に突然お見えになった。

総会で当協会の名誉会長とすることが議決されたので、近々下山会長がスペイン大使館に出向き名誉会長就任を依頼する予定である。

駐日スペイン大使レニャ閣下のご挨拶

下山貞明会長、坂本重太郎前大使、横浜スペイン交流協会会員の皆様並びにご出席の皆様、今回駐日スペイン大使として着任いたしました、今日の横浜訪問は私にとって大変うれしい再会の日です。もう何年も前になりますが、貴協会の会長とは既に特別の交友がありました。その当時、港南区長を務めておられた下山会長は、横浜市港南区ひまわり親善国際交流協会の会長として、活発な活動を展開し、日西友好関係の促進に大きな貢献をしておられました。

その協会を前身とし、横浜スペイン交流協会が生れたとお伺いしました。しかし、会長を始めとする会員の皆様を支えているのは、当時と同じ精神であり、スペイン、スペイン語、スペイン文化に対する変わらぬ愛情が、皆様を結び付けています。

何日か前に、坂本重太郎前大使から、今日の会合についてお聞きし、即座に喜んでご挨拶に伺いしようと申し上げました。

坂本前大使は皆様よくご存じのとおりあらゆる分野において、日本とスペインの関係を促進するため大きな貢献をされたお方です。

この機会に、感謝の気持ちと旧友に再会する喜びを、友人からの言葉としてお伝えしたいと思います。これからも、貴協会のため、日本とスペイン関係のため、また横浜とスペイン関係のため、皆さんのお力をお借りし、また友情を育んでいきたいと思ひます。

私は、日本とスペインの間には、お互いに親愛の情の流れがあると信じています。

私達には多くの共通点があり、何百年にもわたる長い歴史と交流があります。日本人の感受性やあり方と共通するものがスペイン人の中にもあります。

また、日本、スペイン両国が世界の中で占める地位にふさわしい、密度の濃い関係をつくっていくため、経済、貿易、金融、科学技術、文化、教育などの分野で協力していくための大きな可能性が残されています。

今日、こうして皆さんとお会いできたことをうれしく思います。またの機会、貴協会の目的、スペインとの絆、日西関係の促進のため、私個人として、スペイン大使館としてできる事などを話し合うため、大使館で再会できる事を希望しております。

最後になりましたが、この機会を与えてくださった下山貞明会長、坂本重太郎前大使、会員の皆様に重ねて御礼申し上げます。

ホアン・パウティスタ・レニャ・カサス大使の略歴

1940年10月16日、コルドバ県カブラにて、出生
1969-1971 ザールブリュッケン大学（ドイツ）
法学部で欧州学を修める、法学士
1972 外交官学校入学
1975-1980 駐オランダ・スペイン大使館
二等書記官
1980-1984 駐日スペイン大使館一等書記官
1984-1986 スペイン国内閣国際局顧問
1986 スペイン国外務省フィリピン・太平洋課課長
1987 スペイン国外務省北米課課長
1988-1993 スペイン国外務省外交情報局局長
1994 駐中華人民共和国スペイン大使
勲三等旭日中綬章を始めとする勲章を受勲している



▲挨拶するレニャスペイン大使（右は夫人）

坂本顧問(前駐スペイン大使)の講演内容要約

(1) 私から見たスペイン

スペインと言えば、闘牛、フラメンコ。私自身も赴任するまでは、オレンジ、生ハム、ワインの国というイメージが強く、スペインがこんなに工業国だとは思っていなかった。ところが大変な工業大国であり、世界の中でもっと大国扱いされてしかるべきで、それだけの実力がある。また、スペイン人について、個人主義で、自己主張が強く、頑固だと分析するむきもあるが、いったんAmigoになると、とことん情が深く、ヨーロッパにおいて、唯一＜浪花節＞が通じる国であると思う。

スペインは、人類に三つの貢献をした。

第一は、ローマの500年の支配により受け継いだキリスト教を全世界に伝える大きな役割を果たした。

第二に、711年から8世紀間にわたるアラブの支配下でイスラム文明を上手に吸収し、消化して、それをヨーロッパに伝える橋渡しの役を果たした。

第三は、コロンブスの新大陸発見による二つの大陸の出会いで、馬鈴薯、ピーマン、トマト、たばこ、カカオ等がヨーロッパに伝えられたこと。

(ヨーロッパは食糧飢饉を馬鈴薯によって救われたことがある。)

以上の三つの貢献は、まず異なった文明に出会って、融合し、独自のものとし、それを他に伝播したことにある。これからの21世紀の世界の大きな問題は、異なった文化(民族、言葉、宗教)の対立をどうやって解決するかだが、スペインは過去にそれを経験している。私達は、この共生の知恵をもっとスペインに学ぶことができるのではないか。

(2) 日本とスペイン

16世紀の日本がスペイン、ポルトガルから受けた影響は大きい。特に、鉄砲のおどろくべき急速な普及は日本の統一を早め、結果日本の独立を護ったと言っている。信長、秀吉、家康が、スペインの技術や知恵を多く取り入れていた跡がうかがえる。ひるがえって、今日、日本とスペインは色々な面で関係はいい。

(3) スペインから何を学ぶべきか。

1. 異文化との接触の仕方(上述)

2. スペイン人の人生を楽しむ法。 楽観的で、大いに食べて飲み、休暇を楽しむ。

11カ月働き、1カ月の休暇を楽しむことは、社会制度にも組み込まれている。

それからスペイン人は、大変ほめ上手である。これは、すばらしいことで日本人は意識的に見習うべきであろう。

(4) 余談・ハボンさんの話

支倉常長一行が1617年日本に帰国の際、コリア・デル・リオに4~5人の日本人が残ったと思われる。

現在、コリア・デル・リオに600人、セビリア他に600人ほどのハボン姓を名乗る人がいることが分かった。私はラジオを通じて、ハボンさんという名の人に集まるよう呼びかけ、セビリアでパーティを計画したら、650人も集まって驚いた。

彼等は皆、自分達はサムライの末裔だと言い、なかにはコト、カタナなどというあだ名で呼ばれている人もいる。

ホセ・ハボン・セビリアさん(42歳)は、サッカー第一リーグのアンパイアで厳しい判定で有名な人だが、あまり厳しすぎると＜ハボンへ帰れ!＞とヤジがとぶそうである。

(文責・寺原瑛子)



▲坂本顧問の講演は大好評だった

総会参加の記

思わぬゲストの登場で例年になく盛り上がった今年の総会でしたが、そんな中で今年初めて参加された方の声をお聞きました。

定時総会に参加して

高嶋美枝子

お花いっぱいの爽やかなこの季節、爽やかな超ビッグなお客を迎えての今回の総会、初めて出席させて頂いたこともあり、“Que magnifico”の一言でした。

先輩の方々のご努力も10年、さくら外交も見事に根付き、今年も満開だったとか、さくらの木は勿論、ロンダ市の皆様、そして私共会員の心の中にも見事な友情の花を咲かせていることでしょう。

着任早々のホァン・レニャ駐日スペイン大使の慈愛に満ちた日本観、また令夫人の微笑のなんとステキだったこと。そして、前スペイン駐在大使坂本顧問の遠大なスペインの歴史や最近の国内情勢など、ふところ深く優しい眼差しでスペインを側面から見たお話の数々、私達には本当に多くの発見がありました。



▲左端・筆者(筆者にはスペインと日本とのハーフの孫がいる)

友達100人獲得!

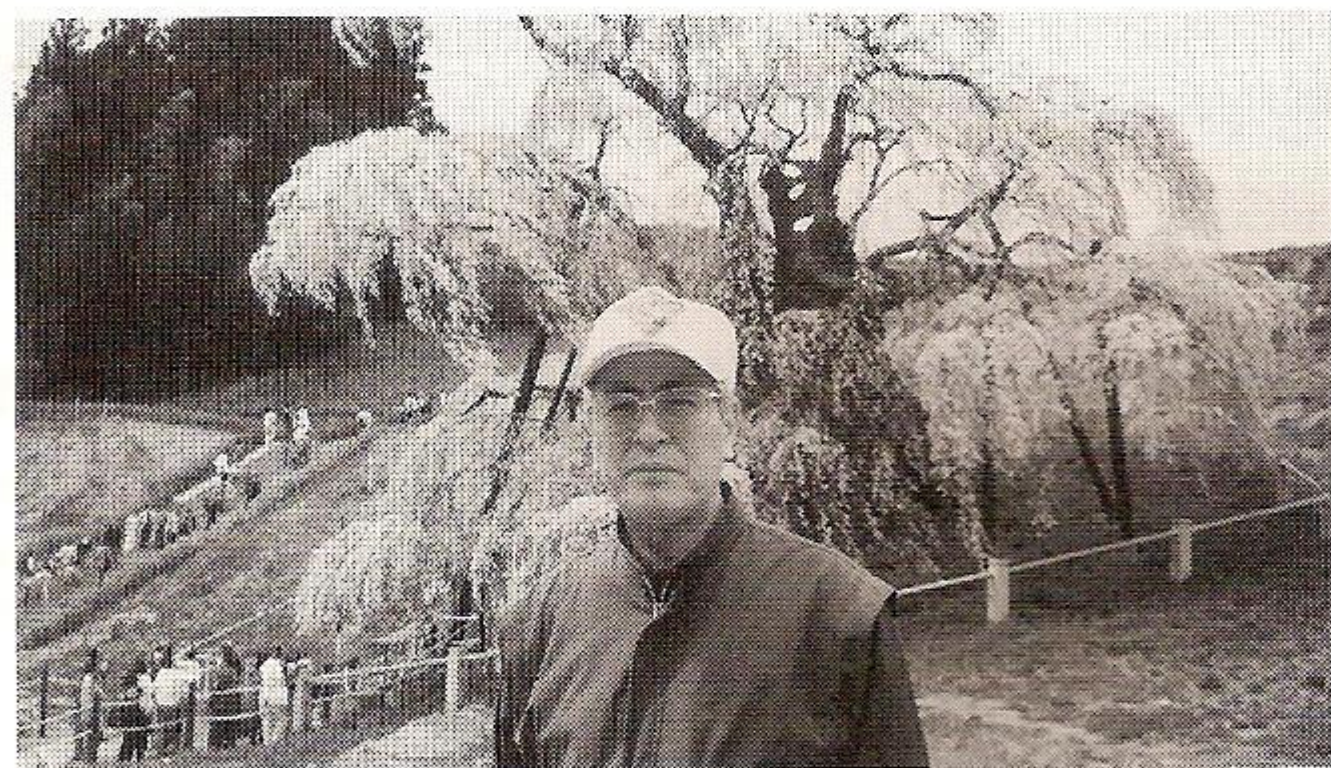
川島 昭芳

実は2年前にも本協会のスペイン語講座に申し込んだのですが、その節は定員枠のため参加できませんでした。このたび先輩ご両名(小俣恵美子会員・石元道子会員)の推薦を賜り、協会に入会できることとなりました。

さて、5月29日開催された協会定時総会では、前スペイン大使坂本重太郎顧問の講演があり、スペイン人の人間性とその歴史と文化、異文化との接触、21世紀を展望した問題点の提起など話題が豊富でいづれも興味深いものでした。

講演後の親睦会では、会員先輩の方々と楽しい一時を過ごすことが出来ました。

これから、たくさんの友達をつくるようにしたいと思います。会員諸兄のご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



▲筆者の川島さん

スペインさくら便り

今年もロンダに桜が咲いた

ロンダに住んでいた春田画伯(故人)が、ロンダと日本の友好親善の印しとして、ロンダにさくらを植樹したいと念願し、その実現のために八方手を尽くしていた。そのとき横浜スペイン交流協会が彼の要望に応え、当協会の第1回さくら植樹は、1993年3月に下山会長とロンダ市長が見守る中で、ロンダの小学生達と一緒にこなされた。あれ



▲故春田画伯夫人レメデオさんとロンダのさくら

から6年目の今年4月の始めに、ブラス・インファンテ公園にさくらがみごとに花が咲いた。その公園には、ロンダ市がスペインと日本の国際親善の掛け橋を作った彼の業績を称え、昨年9月にパゴダが修復されその中に遺灰が収められた。未亡人レメデオ・ハルタさんから、さくらの花に囲まれたパゴダを見て大変感動している、そして協会の皆様に厚く感謝申し上げるとの便りがあった。

横浜とロンダ アントニオ ラサンタ

この文章は1998年9月5日付けRONDA SEMANAL紙の記事を翻訳したものです。

アントニオ ラサンタ氏はロンダ市の文化担当助役であり、歓迎の為に組織をつくり、盛り沢山の歓迎行事を企画し、訪問団を心から歓迎して下さいました。あらためて厚く感謝申し上げます。

横浜は東京に隣接し、現在の人口が300万人を越える日本の重要な都市の一つで、県都であります。

開催中のペドロ・ロメロ祭りに当市を公式訪問中の代表団は、企業、マスコミ、芸術の分野で活躍される横浜スペイン交流協会の幹部の方々です。9月6日までここに滞在される皆さんは、会長の下山貞明氏と令夫人、事務局長の朝倉部氏と令夫人、常務理事の中村瑛子氏、そして理事の宮崎紗伎氏です。

市役所側としましては、Apymerや町内連合会などの市の様々な関連団体の代表で構成された委員会を結成しました。そのメンバーはファン・フライレ、ファアン・ペニテス、ハイメ・コロネル、アントニオ・マルティン、アグステイン・ルビラ、カルロス・ルイス、ホセ・ソリス、そしてこの私で、ここ数日の滞在期間中代表団の皆さんのお供を致します。

横浜スペイン交流協会のメンバーはこれまで2回ロンダを訪問されています。

いずれの時も日本の伝統文化にのっとった活動を展開され、日本のさくらを植樹されました。私たちは茶会に出席し、押し花や折り紙を体験しました。

そうしたことからこの関係を継続し深めてゆくことで意見が一致し、今回のこの公式ご招待が手続きを経て受諾されたのです。

私たちは、来ていただくのに一番適した時期は当市の一番重要な祭りの時だと考えました。

今までの所、国際民族舞踏大会は大変気に入っていただけようです。騎馬行列とお祭り会場の開会式は代表団の皆さんを魅了しました。ロンダの守護聖女教会は大変な感動を与え、そこでは信徒運営委員会が平和の聖母の戴冠50周年記念の記念メダルを贈呈しました。

皆さんにはこの後もゴヤ時代風の馬車飾りと騎馬闘牛を見ていただきます。これらのお祭りが強い印象と感動を与え、友情を深めてこのような文化交流を促進して行こうというお気持ちを益々もって下さるのではないかと期待しています。

日本人画家の故春田美樹氏の遺灰は、御本人の強い希望によりブラス・インファンテ公園のパゴダにこの度納められましたが、私たちは氏が目標としておられた事を忘れてはなりません。

春田画伯は横浜とロンダの間をつなぐ交流の発案者だったのです。この二つの都市を結び付ける大使であり文化の架け橋である春田氏は、氏が心から愛し描いた山々を眺めながら静かに眠っておられます。



ANTONIO LASANTA

Yokohama y Ronda

Yokohama es una importante ciudad japonesa, capital de la provincia del mismo nombre, situada muy cerca de Tokio, que cuenta en la actualidad con una población superior a los tres millones de personas.

La delegación que oficialmente nos visita en estos días de la Feria de Pedro Romero son parte de la dirección de la Asociación de Intercambio Cultural entre Yokohama y España formada por personalidades del mundo de la empresa, los medios de comunicación y el arte. Hasta el día seis de septiembre estarán con nosotros el Presidente, Sr. Sadaaki Shimoyama, y esposa; el Secretario General, Shitomi Asakura y esposa; la Directora Gerente, Sra. Eiko Nakamura; y la Directora Adjunta, Srta. Saki Miyazaki.

Por parte del Ayuntamiento se ha constituido una comisión integrada por representantes de los distintos grupos municipales de la Corporación, así como de Apymer y de la Federación de Asociaciones de Vecinos. Juan Fraile, Juan Benítez, Jaime Coronel, Antonio Marín, Agustín Rubira, Carlos Ruiz y José Solís y el que escribe estas palabras, seremos las personas encargadas de acompañarlos en estos días de estancia.

Ellos, habían estado dos veces en Ronda. En ambas ocasiones desarrollaron actividades relacionadas con su cultura tradicional. Se plantaron cerezos japoneses, asistimos a la ceremonia del té y conocimos la técnica de las flores secas y la papiroflexia.

A partir de ahí acordamos dar continuidad a estas relaciones y profundizar en ellas. La invitación oficial fue cursada y aceptada. Pensamos que las mejores fechas para su venida eran las de nuestras Fiestas principales.

De momento podemos afirmar que las Galas Folclóricas Internacionales les encantaron; que la Cabalgata e inauguración del Recinto Ferial les resultaron fascinantes; y que la visita al Santuario de nuestra Patrona, en el transcurso de la cual la Junta de Gobierno de la Hermandad les entregó medallas conmemorativas del Cincuentenario de la Coronación de la Virgen de la Paz, les emocionó en grado sumo. Todavía les queda nada menos que presenciar la Goyesca, los Enganches y los Rejones. Nuestra sensación es que se van a ir enormemente impresionados, ilusionados y decididos a consolidar e incluso aumentar estos contactos culturales.

No podemos pasar por alto el homenaje del que ha sido objeto el pintor japonés Miki Haruta, cuyas cenizas, por expreso deseo del artista, se han depositado en una pagoda de piedra en los jardines de Blas Infante. Haruta fue el promotor de las relaciones entre Yokohama y Ronda. Embajador y puente artístico entre ambas ciudades descansa mirando a la Sierra que tanto pintó y amó.

聖母マリアの国アンダルシアでスペイン語を学んで

—— 武田信夫（高柳教室） ——

3月の下旬から約1ヶ月、南スペインの「聖母マリアの国」と言われるアンダルシア地方のマラガでスペイン語を学びながら楽しく過ごして参りました。スペイン語を勉強することよりも、もっとスペインを知りたいという気持ちが強く、本で読んだりまた聞いたりしたスペインに住む人々の生活を自分の目ではっきり確かめたかったです。

高柳先生にスペイン語を教えて頂くようになったきっかけは、手話、指文字の存在を知ったのが始まりです。10数年前、九州で始めて聴覚障害者の学生と出会いました。その学生とのコミュニケーションのため、手話、指文字の必要性を知り、それらが世界で初めてスペインの修道院の修道士によって用いられたこと、また、

世界最初の聾教育が16世紀に北スペインのサン・サルバドル・ド・オーニャの修道院で修道士ペトロ・ボンセ・レオンによってスペインの名家ベラスコ家の二人の聾の息子に指文字を使ってなされた事実を聞いてから、何時か北スペインの修道院を訪ねたいと思っておりました。一日でも早くスペイン語の勉強を始めたいと心がけていましたが、地方の大学では働いている時は機会がなく、70歳を過ぎてやっと高柳先生にお会いできた次第です。

高柳先生からはスペイン語だけでなく、言葉を通してスペインと言う国、そこに住む人々を理解して交流を図ることも大切と教えていただいていたので、スペイン語の語学力は心配せず気軽に行っていました。

私の通った「マラカ・インスティトゥート」は、マラガの中心地からバスで10分の地中海を臨む高台にあり、スペイン一の語学学校と紹介されているだけのことはある。快適な宿泊施設クラブ・イスパニコ(Club Hispanico)ホテルを買い取り改造したとのことと勉強や種々のリクリエーションのための施設が整っており、各クラスは最大10人以下の小人数で行われています。特にドイツとの結びつきが強くドイツ州政府の「教育休暇」指定校になっておりドイツからの生徒が多いのが目立ちます。

第一日目の午前中に学力判定の筆記試験と面接試験があり、その日の午後には各自の所属クラスが決まります。私のクラスメイトは、ドイツ、オランダ、ノルウェー、スコットランド、カナダの出身でした。

殆ど同じレベルの語学力の仲間なので、休み時間の会話はスペイン語を主に、それぞれの国の言葉が混ざったオジャ語です。すぐに皆仲良くなり午前中のクラスが済むと、宿題は協力？して早く済ませて町に出かける毎日でした。特にセマナ・サンタ（聖週間）の間はマラガの町だけでなくネルハ、ロンダ、セビリアまでも遠出しました。

町に着いたら観光案内所に行ってプログラムを貰うことです。聖週間の予定表が印刷されています。

プログラムには、どの信徒会（cofradia）が何時に所属する教会前を出発するのか、それからの道筋と教会に戻る時間が詳しく書いてあります。

実際、暗い闇の中に無数のローソクの火に照らし出されて厳かに行進するパソ（paso）のマリア像、キリスト像を仰いで見ていると、ここアンダルシアが「聖母マリアの国」と呼ばれることが理解できます。正直に言ってセマナ・サンタのこれほど感動的な光景は今まで見たことはありません。

アンダルシアの町を歩きバルに入ると、どこかに必ずその大地母神としての聖母マリアが飾られ、祀られているのが見られます。アンダルシアはまさに「聖母マリアの国」です。

マラガの町を歩いて疲れたらバルに飛び込むことです。“オーラ”と笑顔で迎えてくれる。一杯のはずの手にしたビールがいつか二杯になる。自分が旅行者か、マラガの住人かも、時とともに分かちがたくなる。不思議な安堵感を与えてくれる。マラガはすばらしい町です。アンダルシアを訪れるなら、復活祭前の一週間セマナ・サンタ、それに続く春祭「フェリア」が最高の季節です。クラブ・イスパニコに宿泊してスペイン語の勉強を楽しみながら、是非アンダルシアの町を訪ねてください。

出発前、3月の初めにマラガで勉強された経験のある、朝倉ご夫妻に色々とおアドバイスをいただきました。ほんとに有難うございました。



▲高柳教室で、楽しいひととき（右端・筆者）

…夢がかなうなら、もう一度…トルトサ

—— 澤井 裕美 ——

私たち一行の旅程はバルセロナ（2泊）～タラゴナ～トルトサ（1泊）～ベニカルロ～ベニスコラ～バレンシア（1泊）～アラルコン～クエンカ（1泊）～チンチョン～トレド（1泊）～マドリード（2泊）バルセロナとマドリード以外は全てパラドールで泊まるという、豪華にして、なかなか渋い(?) ものでした。全てのことが目点! 耳点! 触点! の初体験の中、最も強い印象を持ったのは、トルトサでした。

バルセロナから、途中タラゴナのローマ遺跡などを見学しながらトルトサに着いたのは夕刻でした。宿泊は、10世紀に掘られた井戸「ラ・スーダ」で有名な城塞のパラドールです。部屋のバルコニーに立つと、目のすぐ下に崩れ落ちそうなカテドラルが見えます。後で聞くとところによると、13～14世紀のカタルニア様式のとのこと。はたして人が住んでいるのだろうかと思えるような古いアパートの屋根屋根も重なりあってみえます。映画の中に出てくる中世の風景がそのままにあります。その風景の中に点景として自分がいることが信じられません。なんとフォトジェニック! カメラ構んで外に出ます。お仲間の、温厚な紳士でいらっしゃるO氏、写真がお好きなH婦人がご一緒です。

まずはパラドールの広大な庭を歩いてみます。このパラドールの愛称にもなっている大きな井戸「ラ・スーダ」をのぞいてみます。恐ろしいので、深く探求しません。城壁から外に向かっては、大砲の砲門がものものしく突き出ています。幾世紀もこのようにして町を守って来たのでしょうか。標高60m位のこの丘の上から町が一望できます。エブロ河がゆっくりと流れ、てらてらと光っています。まもなく日も落ちるでしょう。

さて、私達は夕闇が少し迫ってきましたがパラドールを出て、細くて急な石畳を下っていきます。坂道の両側は、先程テラスから見た古いアパートです。戸口で何人か子供が遊んでいます。所々は、もう住むことが出来ないのでしょうか、空き部屋になっており、すさまじいほどに荒れ果てています。だれも気にしているようすもありません。坂道を降りたところで道路の補修をしています。道路は、小さな丸いすべすべした石を敷き詰めた石畳です。その壊れた個所に全く同じ丸い石を一つ一つ手作業で詰めています。百年も経ればつつるつるになるのでしょうか。そうなる迄に、たくさんの人がヒールを引っ掛けたり、つまずいたりする事と思いますが…。この先も、決して、この町の人たちが、つぎはぎだらけのアスファルトの道路を歩くことは無いでしょう。自国の歴史を思い起こさせる手がかりが、至る所に残されている豊かさに強く感銘を受けました。

暗く、静まりかえったカテドラルの中を少々不気味に感じながら（急ぎ足で）通り抜けたり、本屋さんに入って絵本を買ったりしながら町の中を歩きます。店の中は外観より広いのですが、ひっそりとしていてきれいな絵本が豊富にならんでいます。刺激的な雑誌などは見当たりません。（これで食べられるのかしら?）などと余計な心配をしていると「お孫さんに御土産?」（確かにそのように聞こえたのですが）と、にっこり笑って品の良い顔つきのおじいさんは、私の買った本を可愛い包装紙に包んでくれました。私の息子どもにはまだお嫁さんも居ないのですが…いささかショックに感じながらも、日本で見慣れた“豊かさ”のようなものの違いに感服します。突然、道



▲ベニスコラの街角での筆者

路の両側にある街灯に灯が入りました。上空は少し明るさが残っています。石畳は街灯に照らし出されて淡くオレンジ色に輝いています。タイミング良く通りかかった若いお母さんと幼い女の子をシャッターにおさめて、私達も帰ります。先程通って来た坂道を登ろうとしたときでした。ダンボールを手にした、黒ずくめのお婆さんが私達に向かって“D n jパラドールふにゃフニャなんちゃら〜”と叫びました。その時の、O氏の反応はとても早いものでした。「ダンボール!」と叫ぶや否や石畳の坂道を駆け上がってます。?を頭に乗せつつも、H婦人に続いて私も走ります。ダンボールを抱えてお婆さんが思わぬ健脚で追いかけてくるのです。少し登った所でお婆さんの足が止まりました。この大変異様な私たちの行動にはいささかの訳があるのでした。バルセローナに着いて以来、現地ガイドの方から当地の治安の悪さについて、耳にタコが出るほどレクチャーを受けたのでした。

その1、黒ずくめで、カーネーションを持った花売りお婆さんに気をつけること。

財布を出した途端にかすめとられます。

その2、手のひらに小銭を乗せた男が近づいてきて、観光客に小銭をせびる振りをする。

財布を出したら、大銭を取られています。

その3、ダンボールを持った男、または女に気をつけること。ダンボールを広げて近づいてきて、あっと言う間に財布や、パスポートがすられています。

被害は無かったものの、これら、三か条をすべて目撃した上に、ダンボール方式では、前日、バルセローナの旧市街で実際に襲われ、通りがかった屈強な男性の助けがあって無事こと無きを得たのでした。

このようなことがあったとはいえ、トルトサの一人のお婆さんとの大切な出会いを台無しにしたことは、ずっと私の心に残っていくでしょう。トルトサの町では、名高いカテドラルを見学したわけでもなく、有名な工芸品を買ったわけでもありません。パラドールで一泊しただけなのですが、このお婆さんに会ったことで忘れることのできない町になったのです。もし夢がかなうならば、もう一度トルトサに行って、あのお婆さんに聞いてみたいのです。「あの時の“D n jパラドールふにゃフニャなんちゃら〜”は何とおっしゃたのですか？」

この他にも、バルセローナからバスで40分ぐらいの所にある“モリンス・デ・レイ”。宝石箱のように素敵に思えました。もう一度ゆっくりと訪ねてみたいところです。ともあれ、私は旅行中、スペインが闘牛とフラメンコで有名な情熱の国だと言うことをすっかりわすれていたのです。

—— 会員投稿 ——

Granollers郡Cardedeu村のこと

—— 松本 益代 ——

Aiyes通信第19号スペイン・ミニミニ情報の一番下の記事に、バルセローナ近郊にアウトレット・モール誕生。場所は、Granollers駅か、Cardedeu駅で下車とのこと。なつかしい土地の名前。実はこのCardedeuに行っていた事があるのでした。

この村に、INTERMASというプラスチック成型会社の本社工場があり、ここに日本の発泡スチロールのネットを作る機械一式を据え付け、試運転するために通訳として立ち合ったのでした。

それは今から27年前の、1972年4月に、1ヵ月ほど通訳としてこの会社の技術担当重役二人の研修についた事からはじまります。

当時私はOLをやめ、以前から勉強をしたかったスペイン語を瓜谷良平先生の私塾のような、東京スペイン語学院で始めて3年くらいした時に、この話がありました。

多分ベテランの人たちが断ったので、私のところへまわって来たのかもしれませんが、知らない化学用語は、esto, esoとか aquelloなどと言え、何とか通じるだろうーという気持ちで引き受けたと思います。

INTERMAS社はアメリカ、デュポン社の技術を使っの操業という立場で、日本の東京ポリマー社とは、ファミリー企業として仲が良く、その推薦で、発泡スチロールのネットを作る機械一式をその発明者の東さん(株)共伸から購入し、このネットでスペイン特産のオレンジを包み、ヨーロッパ各国へ輸出しよ

うとするためのものでした。

ちなみにヨーロッパでは、オレンジはスペイン以外ではイスラエルでしか生産されないそうで、このネットで包むと付加価値が高くなり、より高値で売れるとの事でした。

東京でのさくら見物の後、まだ残雪の多い岩木山の麓のりんご園の中にある工場で2週間の実習が行なわれました。原料や温度、圧力など、作業の工程は複雑で、発明者自らが教えました。彼らは、レポートやポラロイドなどで丁寧に記録していました。

そして、その年の秋、私は日本スペイン協会の奨学金をもらえるというチャンスがあり、マドリード大学の外国人向けの語学コースに1年間の留学をしたのですが、今度は「共伸」より現地に呼ばれ、機械の据え付けと試運転に立合いました。

バルセロナ空港から車で一時間くらいだったでしょうか、Cardedeuの村は赤い土がむきだした土地が連なる丘陵地帯で、荒涼としていました。

疎らな人家の中にINTERMAS社がありました。新しい機械の導入に社運をかけているようすで、活気に満ちていました。数日間滞在しました。また、翌年にも、もう一度鳥取の梨園で研修が行なわれ、私も帰国早々お伴しました。

数年まえには、フロンガスの代替がうまくいかないからと、当時東京ポリマー社の工場長だった人が、いまは、技術コンサルタントとして独立しているのですが、彼が呼ばれて行って、指導して来たようです。

日本での研修でお世話した、Gutierrez氏とその家族とは、その時からの付き合いがいまも続いています。

その当時、クリスマスの休暇や夏には、その家に招かれ、Huelvaから来た親戚の家族とも知り合いになり、楽しく過ごしました。Huelvaからは生ハム一本のお土産を持って来ていて、物置きに吊しておき、削ぎとっては食べたり、リビングではすぐに歌や踊りが始まったり、日本にはない風習に感心したものでした。その後、アンダルシアの各地をまわったついでに、Huelvaの彼らの家にも行き、ロバの行き交う村で再会しました。

と、言う訳で、Cardedeuは、私にとってはなつかしい村の名前なのです。

ところで、発泡スチロールのネットのことを、malla de estireno/estirolo expandidoといいます。

◆フラメンコ舞踏劇「カリマンタン幻想'99」のお知らせ

この作品は50余年前の太平洋戦争の末期、戦火に追われ、恐怖、空腹、マラリアの高熱と戦いながら、カリマンタン（旧ボルネオ島）のジャングルの奥に迷い込んだ1人の青年敗残兵の実話をもとにした“平和・友好・人間愛のメッセージ”です。今回の公演では、ギャック族（インドネシア人）の民族舞踏や語り部を登場させることで、わかりやすいフラメンコ舞踏劇として楽しんでいただけるように構成しています。出演者はフラメンコ山口のりこ、ギター日野道生/増井建一、うた加藤直次郎、フルート荒巻朋康、パーカッション吉口克彰その他の方々です。

日 時 8月8日(日) 第一回公演・開演午後1時30分から、第二回公演・開演午後6時から

場 所 横浜市旭公会堂 交通 横浜駅から相鉄線で鶴ヶ峰駅下車、徒歩7分

チケットの申込は、<フリーダイヤル>0120-724615

お問合せは、大和フラメンコスタジオ(山口のりこ方) 電話0462-61-8188 Fax0462-61-0557

◆神奈川大学にフラメンコ部発足

神奈川大学では、古い歴史のあるスペイン語学科がありながら部活動にフラメンコ部がなかったが、昨年7月に関係者の後押しがあってフラメンコ部を発足することが出来た。現在、長谷幸重さん（スペイン語科2年生）を初め部員15名が一般公演を目指して、週一回の練習に励んでいる。

（この記事は賛助会員のレストラン「パラドール・デ・かまくら」のオーナー竹山氏より提供いただいた。）

6月より、新たに3教室スタート

戸塚教室「ヒラソル」(高柳講師)が3月末を以って閉講となったのを引き継いで講師、会場も新たに、新「ヒラソル」が誕生しました。

また、スペイン人講師による入門クラスがすでに2教室運営されていますが、かねてより受講生の方々から、日本語での文法の基礎知識が必要との声があり、入門クラス(C)としてそれに応えることにいたしました。

ところで、以上2クラスの募集については、去る5月10日の「広報よこはま」の「浜っ子ひろば」への掲載で実現したのですが、4倍以上の申込みがあり、その上、電話での熱心な問い合わせも多く、急遽、文法終了者クラスをもう一教室増設することを講座運営委員会で決定しました。詳細は以下のとおりです。

教室名	開講日	時間	会場	講師
ヒラソル	6月9日(水)	10時30分～12時	県民サポートセンター	きっかわ まりこ 橘川万里子
入門C	同上	13時30分～15時	同上	橘川万里子
ロサ	6月16日(水)	10時30分～12時	同上	マリア・コンチャ・モンテス

●講師自己紹介●

橘川万里子講師

はじめまして!

この度、高柳治子様のご紹介より、スペイン語教室の講師をさせて頂くことになりました。どうぞ、よろしく御願います。

大勢の方々と相手に教える経験も少なく、少々不安ではありますが、私としては数十年前の自分に戻って、一緒に基礎からやり直すつもりで、新鮮な気持ちでかつ楽しみながら、息長く続けてゆければと思っています。

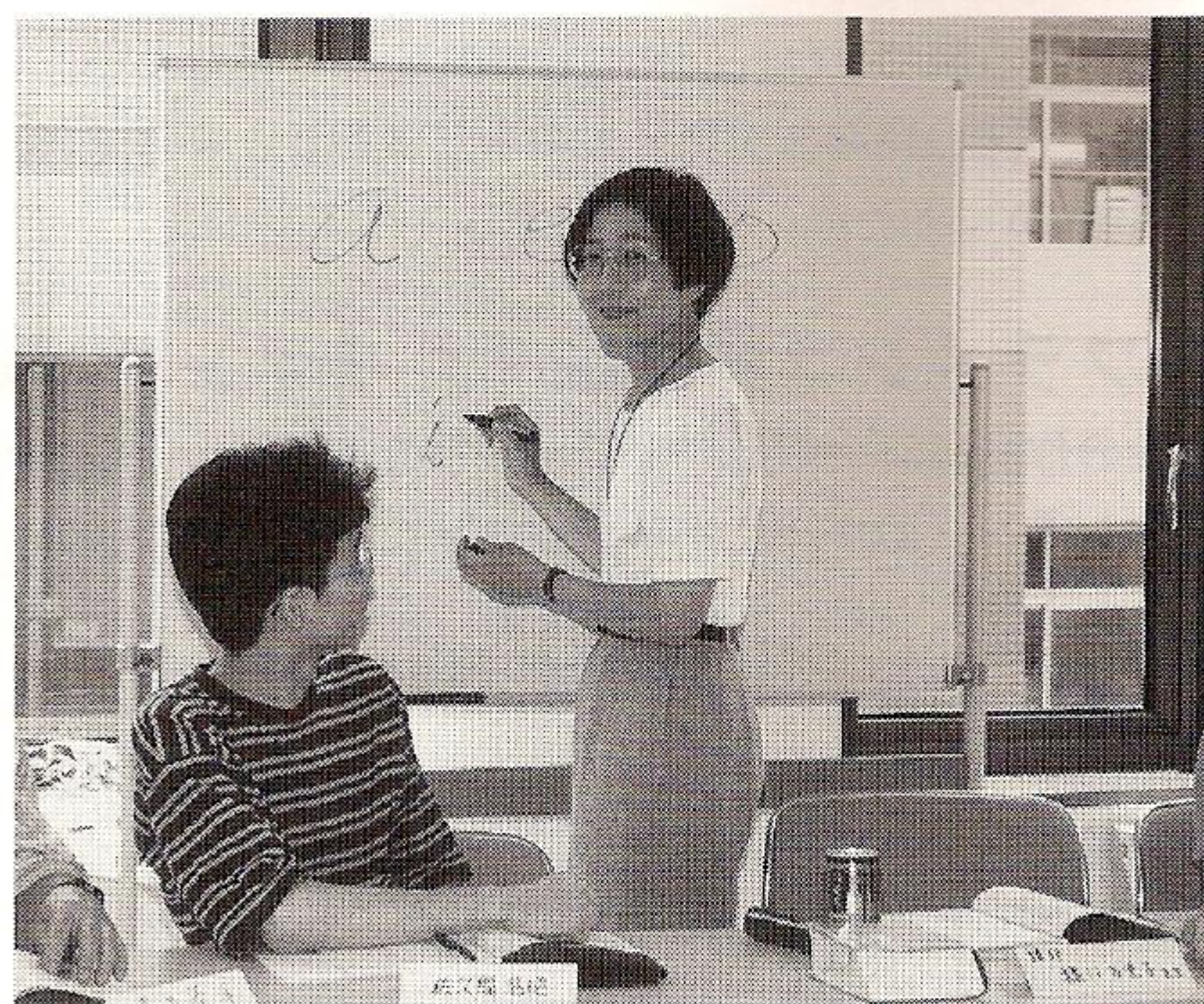
半年遅れの海外の雑誌を教材に、四苦八苦した学生時代、そして、この横浜から、初めてスペインへ向った頃のことを考えると、今は、何と世界が狭くなったことでしょう。

近頃では、お茶の間にスペイン語のニュースも見ることができますし、海外の書籍も手に入りやすくなりました。

ラジオやテレビの語学講座、それに通信教育もありますし、街のあちこちに語学学校も見かけます。年齢に関係なく、何か新しいことに取り組むチャレンジ精神の旺盛な方が、たくさん居られる昨今ですが、そういう方にとっては、本当に良い時代になったのではないのでしょうか。

これからスペイン語を始めてみよう、この協会へ来られる皆さんのために、微力ながらお役に立つことができましたら、こんなにうれしことはありません。

講師略歴 昭和40年 上智大学イスパニア語学科卒業
昭和43年 グラナダ大学外国人コース修了
昭和46年 在日スペイン大使館勤務
NHK通信講座添削講師、その他翻訳・通訳など



▲スペイン語教室の新しい講師、橘川さん(右)

ー スペイン・ミニミニ情報 ー

◎サンタンデール国際音楽・舞踏祭

カンタブリア海に面した都市サンタンデールで、今年もまた8月に国際音楽・舞踏祭が催されます。今夏、スペインへのご旅行の計画がございましたら、ちょっと足をサンタンデールまで伸ばしてみたいかがでしょう。本物のヨーロッパの音楽が、楽しめます。

●オーケストラ・コンサート部門

- 8月4日 フランス国立オーケストラ (ソリストYung Wook Yoo 指揮Pnchas Steinberg)
- 8月23日 ウィーン・シンフォニー (指揮Kurt Rapヨハン・シュトラウス記念コンサート)
- 8月24日 グラナダ市オーケストラ (ソリストLudmil Anguelov 指揮Joep Pons)
ショパン作品
- 8月26日 ローマ・チェンバー・シンフォニー (ソロ&指揮Uto Ughi)
- 8月27日 バーバラ・ヘンドゥリックス・リサイタル
- 8月28日 テネリフェ・シンフォニック・オーケストラ (ソリストDaniela Dessi/Vincenzo La Sciole/Robert Scandiuzzi 指揮Victor Pablo)
ヴェルディ「レクイエム」
- 8月31日 バイエルン・オーケストラ (指揮Lorin Maazel)
ブルックナー「交響曲7番」他

●オペラ部門

- 8月1～3日 トゥーランドット (プッチーニ) -オーケストラ&合唱: ソフィア国立オペラ (舞台監督Sonja Frisell 指揮Rico Cassani)
- 8月5日 ボロディン「イーゴリ公爵」-ソフィア国立オペラ
- 8月9日 ショパンCosi fun tutte
- 8月29日 テネリフェ・シンフォニックス・オーケストラ (ソリストSimon Estes 指揮Victor Pablo)

●バレエ・演劇部門

- 8月12・14日 ウィーン・シュタット・バレエ (サンタンデール・フェステバル・オーケストラ)
- 8月17日 スペイン・がら・ダンス (サンタンデール・フェステバル・オーケストラ)
- 8月12・14日 クレムリン・バレエ (サンタンデール・フェステバル・オーケストラ)

◎ベラスケス生誕400年祭

今年はスペインを代表する画家の一人、ベラスケスの生誕400年の年にあたります。そこで、本年6月6日から明年6月6日までの1年間にわたって、彼の母国スペインでは、いろいろな記念イベントが予定されています。

現在公表されている主なイベントを紹介します。なお、詳細については各関係機関にお問い合わせ下さい。

●プラド美術館

- 「ベラスケス展示室」の設置 (1999年6月)
- 「ベラスケス版画とスケッチ展」(日時未定)

●サンタンデール大学及びエル・エスコリアル大学

- 1999年の夏季講座において、ベラスケスに関する特別講座の開講を予定
- 同時にベラスケスの宗教画の展示も行う (日時未定)

●アンダルシア州政府企画

- ベラスケスとセビリア展 1999年10月～12月
- ベラスケス国際シンポジウム 1999年10月
- 於: サンタマリア・デ・ラス・クエバス (セビリア市内)

◆協会理事上野淑子さん [夢と祈りと感謝のリサイタル]

日 時 1999年9月19日(日) 16時開演(15時30分開場)

場 所 有楽町朝日ホール(マリオン11階)

入場料 4,000円(自由席)

曲 目 北上夜曲、夜明けの歌、聞かせて愛の言葉を、マラゲーニア、新カルメン、グラナダ、その他
切符予約・お問い合わせは、上野淑子さんまで。

◆協会会員 野呂妙子さんリサイタル

特別出演 サチ・ノロ(バレエ) アラン・リグー(バレエ)

日 時 1999年10月22日(金) 18時30分開演

場 所 簡易保険ホール(ゆうぽーと)五反田駅より徒歩5分

お問い合わせは、03-3710-1022(電話・FAX) ㈱野呂事務所まで。

◆協会会員 島津豪亮さん個展

スペイン詩情を描き続けている会員の画家、島津さんの個展が下記のように開かれます。スペイン大使館が後援しており、新任のホァン・レニャ大使よりメッセージも寄せられています。

日 時 1999年7月6日(火)～7月12日(月)(最終日:16時閉場)

場 所 東急百貨店本店(渋谷)・6階美術画廊

◆新刊書の紹介

当協会のテルトゥリア(おしゃべり会)でおなじみのチャロさんのご主人、カルロス・アルバレス氏が、鴨長明の<方丈記>をスペイン語に翻訳し、昨年10月マドリードで出版されました。

本のタイトル: UN RELATO DESDE MI CHOZA (HOOJOOKI)

翻訳者: JESUS CARLOS ALVAREZ CRESPO

出版社: HIPERION (Madrid) 1998, 130ページ、定価: 1.100ペセタ

国内での注文先: マナンティアル書店 電話03-5731-2387 FAX:03-5731-2388

価格: 1.760円

◆自宅でいつでもスペインのテレビが見られる

デジタル衛星放送のスカイパーフェクトTVが、スペイン国営放送(TVE)の海外向け番組をch.332「TVEスペインチャンネル」として24時間放送をしています。

番組の内容はニュース、映画、ドラマ、ドキュメンタリー、フラメンコ、スポーツ、音楽; フラメンコ、闘牛などスペインの香り満載。視聴の方法は次のようなステップです。

- 1) ベランダや屋上に衛星アンテナを立てる場所を確保する。晴天の時の午後1時から午後2時に太陽が見通せる場所が必要です(南南西の方角)。
- 2) デジタル衛星放送の受信セットを購入する。店頭で調べたら購入費用は3万円から5万円ぐらいでした。
- 3) パラボラアンテナの取付け工事を依頼すると、工事費用は2万円ぐらいとのことでした。
- 4) 機材の準備が済んだら、カスタマーセンターに電話して仮登録をします。その日から2週間、無料でチャンネルを視聴できます。テレビ194チャンネル、デジタルラジオ106チャンネルの中からご希望のチャンネルを決定して加入申込書を書いて投函します。

ちなみに、「TVEスペインチャンネル」だけを契約した場合の費用は、加入料(初回のみ)2,800円、基本料金/月290円、「TVEスペインチャンネル」視聴料/月700円です。

視聴のお申込は、スカイパーフェクトTVカスタマーセンターへ(受付時間9:00～21:00)

電話0570-039-888 TVEスペインチャンネルの不明な点は、㈱アイ・ピー・シー・テレビジョンネットワーク宣伝企画課イヨマサ・ユリカ様宛に、お問合せください。電話03-5420-7804 Fax03-5420-7805

・編集後記 総会へのスペイン大使の突然の出席といううれしいニュースで新年度がはじまりました。

AIYES通信もおかげさまで20号! 新たな気持ちで頑張ります。

* 投稿寄稿宛先 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター内
かながわ県民活動サポートセンター
レターケースNo.184 横浜スペイン交流協会会報係